
SAO7 マザーズ・ロザリオ幕間一

MITUKAN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SAO7 マザーズ・ロザリオ幕間1

【Nコード】

N5428Z

【作者名】

MITUKAN

【あらすじ】

ソードアートオンライン7 マザーズ・ロザリオにて、ボス部屋にアスナ達がいった後のキリトの話です。

SAO7の幕間という設定ですので用語等の説明は一切なしです。コミカルな内容です。シリアス分はまったくありません。

27層最上階

「ふう〜、いったか…」

重々しく響く扉の閉まる音を聞きながら、俺はおおきく溜息をついた。

アスナからワンパーティーでのボス攻略の話がされた俺は攻略ギルドの妨害を警戒してはいたが、まさか平日の昼にこれだけの人数を揃えられるとは思わず、かなりあせりながら追いかけるハメになった。

まあ、なんとか間に合い、宣言した足止め時間3分を待たずに（肩に乗るユイが2分8秒だと教えてくれた）ボスの間に突入するアスナ達を見送ることができた。

2

これでこちらには戦闘を続ける意味がなくなったわけだが、おそろしく聞いちゃくれないだろうな。

なんせすでに俺が5人、クラインが3人を消滅させているし…でもアスナ達の結果も見届けたいので、俺はいったん距離をとり、駄目元で言ってみた。

「もう通行止めは解除するが、どうする？
まだ続けるってならつきあうが、あと2、3人はデスペナを覚悟しろよ。」

あっ、それとこのエクスカリバーには保険かけてあるからドロップはしないぞ。」

俺は左手の剣を軽く持ち上げながら付け加えた。

俺の宣言に瘦身のサラマンダーが頭を振りながら前にでてきた。

「確かに続ける意味は無いかもしれん。だが……」

やはり仲間を倒されてはひけないか…と気を引き締め直そうとして
いると、

「だが、閃光様を独占している貴様をこのまま見過ごすことはでき
ん!！」

はっああ？閃光様だと…ならこいつは……

「そう、俺はファンクラブ会員ナンバー26だ!！」

…いや、SAOサバイバーだという回答を期待したんだが…

「学校でもいちやつきやがって…」

「リア充氏ね!！」

「もげる!！」

とたんにわきあがる俺への非難にあっけにとられていると、小柄な
ケットシーの男がでてきた。

「閃光様は僕らにや高値の花だったかもしれにやい。

だが、ポリニュームゾーンのアイドル、シリカちゃんをも奪っていつ
たのは許せないにや!！」

「それに萌え鍛冶師のリズベットちゃんもつれまわしてるし!！」

とこれはマツチヨのレプラコーン。

「さらに『シルフの戦乙女』リーファちゃんまで…、ハーレムか？
ハーレムなのか？」

こちらはギルドマークの違うシルフの剣士の発言に

「リーファ、二つ名あったんだ…」と変なとこに気を取られて、

「いや、リーファは妹だし…」

と考えなしに口に使っていた。とたんにわきあがる罵詈雑言。

「なつ、リアル妹と仲良くネトゲだと…！？」

「なにそのギャルゲ展開!？」

「リア充氏ね!!！」

「もげろ!!！」 「もげろ!!！」 「もげろ!!！」

「くうく、マンダーには女の子なんてほとんどいないってのに」

この最後の発言を受け、ノームの盾男がぼそりと

「俺、ノームの女性アバター、見たこと無い…」

この発言に周囲はシーンと静まりかえった。そう、公式HPのキャラ紹介ですら他の種族は男女のイラストがあるのに、ノームだけは男キャラのイラスト一枚のみなのだ。

この気まずい雰囲気を取り払おうと瘦身のサラマンダーが声をあげた。

「と、ともかく、俺達はSAOでは中層プレイヤーだった。ALO組はあんたがグランドミッションの詐欺を暴いてからはトップ組に入れずくすんでたメンツだ。」

「だからこの新生アインクラッドで攻略組として活躍し、トップランカーとして活躍し、女の子にもてる！！これが俺達ギルドの目標なんだ！！」

あらら、ぶっちゃけちゃったよ、っていうかちょっとテンションさげる！ユイが怯えてる。

でもマンダー男の語りは止まらない。

「だがこれまでの攻略で目立ってるのは、まわりを女の子で固めたそこの黒いのだけ！！」

いや、クラインもエギルもいたんだが…

「さらにここ3層ほどは攻略にも出てこねえ。そしたら今度はちつとも話題になりやしねえ。」

Mトモにも一行で『新生アインクラッド24層攻略』って書かれるだけってどうゆうことよ、おお！？？」

まあ、まだ低階層だし、解放されてもたいしたサブダンジョンもなかったしなあ。

「だから黒いの！！ここで俺達の前に立ちはだかったお前はボスキヤラと同格の敵だ！！」

どうあっても最後までつきあってもらうぞ！！」

「パパ、あの人達、目が怖いです」

怯えて俺にすがりつくユイに

「ああ、ここからはナビはいいよ。隠れてて。」

と諦め混じりにささやいた。このしぐさにも盛大なブーイングが起こつたがもう知らん!!

馬鹿馬鹿しいがあこのマンダアの野郎だけは殺つてやると無理やりモチベをあげていると、

「ちよいと待つたあああ!!」

部屋中に響き渡る大音量の声があがった。

声の主はここまで無視されてきたクラインだ。

「おめえらの気持ちはよくわかった、だがな……」

おお、さすがクライン、暑苦しい場面では頼りになる……

「そついう理由なら俺もこつちにつかせてもらつ!!」

はあ？なに言つてんだこの馬鹿は。マンダアの男も同じ思いだったのか、

「なんだあんたはつて、そのバンダナに刀つていえば……」

「そう、俺はSAOで攻略に参加していたギルド『風林火山』のリーダー、クライン様だ!!」

またざわざわと周りが騒がしくなる。

「おい、『風林火山』なんて知ってるか？」

「いや、『聖竜連合』なら知ってるけど…」

「確か、野武士みたいなむさくるしい野郎ばかりの集団だったはず」

あら？あんまり知られてない？アタッカーとしては優秀だったんだけどな…

まわりのあんまりな言い草に、さらに声を張り上げるクライン。

「ほらっ、これだ！！攻略組で言っただってこんなもんだ！！」

だから、だからこそおめえ達の今は俺が通ってきた道だあ！！！！！！」

そして瘦身のマンダーに近付くのがちりと握手、そしてがしつと抱き合った。

そんなことしてるから暑苦しいとかむさくるしいとかいわれんだよなんて考えてると、

「パパ、あたし帰る。頑張ってたね」

そう棒読みで告げるとあきれ顔でユイがシャランと消えていった。

よし、殺る奴がひとり増えた。クライン、ぜってーぶつ殺す！！

「ごちゃごちゃうるせー！！ 文句ある奴はかかってこい！！！！
おまえらまとめてぶつとばしてやる！！！！！！」

その宣言に目を光らせておそいかかる馬鹿どもに俺は
出し惜しみせずスタバースト・ストリームを叩き込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5428z/>

SA07 マザーズ・ロザリオ―幕間―

2011年12月18日10時51分発行